

# 秋水通信

第27号

2019.12.10

幸徳秋水を顕彰する会  
四万十市右山五月町 8-22  
四万十市立中央公民館  
TEL0880-36-2778 (田中)  
HP:<http://www.shuusui.com/>  
mail:zen-tanaka@heart.ocn.ne.jp

## 小沢一郎氏秋水墓参

11月20日、小沢一郎氏（現・国民民主党総合選挙対策本部長相談役）が幸徳秋水の墓参をした。

小沢氏は高知県知事選挙の野党統一候補応援のために高知県に入ると、空港から宿毛市に直行。同じく政治家だった父佐重喜と縁の深かった林譲治（吉田茂内閣で副総理、衆議院議長）の墓参をした。高知市にUターンする途中で秋水墓に立ち寄った。

小沢氏には盟友の平野貞夫さん（元自民党、自由党参議院議員、土佐清水市出身）が同行。平野さんは秋水顕彰会会員であることから、小沢氏に秋水墓参を勧めてくれたのだ。顕彰会宮本会長ら7人で出迎えた。小沢氏に大逆事件と秋水について説明。隣の坂本清馬墓や地元顕彰活動についても加えた。

小沢氏は、ふむふむといった感じで黙って聞いていた。秘書がもってきた花を差し、



小沢一郎、平野貞夫

じつと墓に手を合わせ、「不義や不正に対し闘った人なんだな」と言われた。

小沢氏は岩手の人。石川啄木が秋水思想の影響を受けたこと、原敬が首相時代、所属する政友会高知支部が秋水を憲政功労者として表彰したことも、平野さんから聞いていたようだ。

小沢氏はテレビで見える通り、いかにも大物政治家で近寄りやすいオーラを発しているが、語り口はひょうひょうとして人を引き付けるものがある。記念写真を頼むと気安く応じてくれた。

小沢氏は東京から4人の同行記者を引き連れていた。宿毛では2人の地元記者も加わった。

小沢氏の父佐重喜は戦後第1回衆議院選挙で代議士になり、自由党で要職に。吉田茂内閣の大臣など。吉田、林の宿毛人は政治の師であった。親の恩を忘れない政治家の義というものか。林譲治の父



全員で



宿毛市  
林有造、譲治墓参

は自由民権家林有造で、秋水は16歳の時家を飛び出し東京の有造の門をたたき書生になった。有造は「立憲社の獄」で弾圧囚われ、盛岡で入獄したことも。そんな秋水、有造、岩手のつながりもある。

小沢氏は林家墓（有造、譲治）の前で、記者たちにこう語った。

「安倍内閣は吉田、林さんがつくった保守本流ではない。垂流だ。」安倍内閣は権力を私物化、腐敗しきつており、瀕死の状態。内政、外交すべてに実績をあげていない。「知事選では共産党候補でまともだった。県民の抵抗は一部にはあるだろうが、乗り越えなければならぬ。年内に野党がまとまり、政権の受け皿を示せば、次の選挙では必ず勝ち、政権交代ができる。」「野党は保守本流の支持も得なければならぬ。」

保守本流と野党の共闘。これは平野貞夫さんがこの間さかんに主張している。日本の政党の源流は林有造、板垣退助らの自由民権運動の中で生まれた土佐の自由党であり、幸徳秋水も若きシンパであった。秋水はその後社会主義、共産主義への道を進む。保守の流れは戦後、吉田、林らに受け継がれる。ともに源流は同じ。大逆事件は桂太郎内閣が仕組んだ。歴代首相の中で在任期間最長記録は桂太郎であったが、安倍首相が超えたその日に小沢一郎氏が秋水を墓参したことは歴史的意味がある。

秋水、千代子、駒太郎書簡所収

「岩崎革也書簡集Ⅱ」 発刊

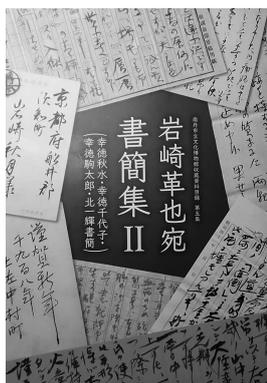
岩崎革也は秋水、堺利彦らの平民社の活動を経済的に支援した京都府須知町の地主、銀行家であり、前号で紹介した。

岩崎家資料の中には、秋水らからの多くの書簡類が残されていた。京都丹波岩崎革也研究会が中心になりこれらを整理し、先に「岩崎革也書簡集Ⅰ（堺利彦、為子書簡）」を発刊したところであるが、このほど続いて「書簡集Ⅱ（幸徳秋水、幸徳千代子、幸徳駒太郎、北一輝）」も刊行した。

収録数は、秋水27、千代子8、駒太郎23、北一輝14、計72点。駒太郎の内訳は初代駒太郎1、2代目22（長男富治が一時駒太郎を襲名）。

秋水書簡は明治36年12月、41年12月。革也支援への礼状や、この間渡米したことから、サンフランシスコから出した手紙などが含まれている。

編集発行は南丹市立文化博物館。



# 正福寺 宗教活動再開 住職着任

幸徳家の墓があり、かつて菩提寺であった正福寺（中村山手通）は長らく休眠状態であったが、このほど佐藤嘉辰住職（50歳）が着任し、宗教活動を再開した。

正福寺は鎌倉時代の承元元年（1207年）、朝廷の怒りを買った中村へ配流されることになった法然上人を迎えるために地元民が建立。配流先は讃岐に変更になったが、法然は落胆する住民に身代わりの袈裟を贈ってくれた。この袈裟は、いまも市立郷土博物館に所蔵されている。

以後、浄土宗の有力寺院として栄え、幸徳家木戸家（秋水漢学の師木戸明）など、主に中村の町人たちの菩提寺となった。

しかし、幕末勤皇運動のあおりを受け、明治初年、廃仏毀釈で廃寺に。本尊仏像は大分県佐伯市潮谷寺に避難したままとなっていた。本堂跡には裁判所が建ち、墓地だけが残された。

明治36年、兵庫県の寺の名籍を移す形で再興。大逆事件後、秋水墓参者は裁判所窓越しにチェックされたという言い伝えが残っている。



佐藤嘉辰住職

戦後には本堂、庫裏も改修されたが、住職が定着しないままであった。このため檀家が離散し、周辺の寺院に移ったり、幸徳家のように神道（一條神社）に鞍替えした家もある。

佐藤住職は京都市生まれで、京都商業、佛科大学で野球部所属。卒業後、松竹芸能に入り、お笑いタレントを目指したが、病気を機に「改心」。仏門に入り、浄土宗本山知恩院で修業したという異色の経歴をもつ。

須崎市の浄土宗発生寺から派遣されて来たもので、この間、精力的に動いている。今年8月のお盆には、秋水墓の前で経を唱えてもらった。9月には本堂で最初の法話が行われたが、さすが興味をひく、飽きさせない見事な口上であった。

秋水墓のある寺に住職が復活すること歓迎すべきこと。檀家名簿が残されていないということから、当顕彰会としても協力し、墓石名から元の檀家をさがしだし、住職があいさつ回りをするのに行案内したりしている。



正福寺本堂

# NHKに抗議 ファミリーヒストリー 小澤征悦



小澤征悦 証言

今年8月12日放送NHK「ファミリーヒストリー 小澤征悦」に幸徳秋水が出てきたので驚いた。小澤征悦は俳優で、指揮者小澤征爾の息子。

小澤家のルーツは山梨県西八代郡高田村（現市川三郷町）。征爾の祖父新作（文久2年生まれ）は有力農家で地域のまとめ役であった。

番組では、征爾の従兄の小澤清氏（88歳）という人物が出てきて、「どういうわけか、うちのおじいさん（新作）が（秋水を）かくまったって言うんですよ」「当時幸徳秋水をかくまうなんてことは普通できないじゃないですか」「おじいさんは義侠心のある人だった」という証言をした。私はこれがおかしいと思ひ、すぐにNHKに手紙とメールを送った。

一、秋水が山梨県に行った記録はない。のちの昭和の治安維持法、特高警察の時代とは違い、秋水の時代は、官憲から尾行されたりはしているが、逃げまわると

いう状況ではなく、堂々と出歩いている。証言では秋水はまるで犯罪者、逃亡者だ。三、番組冒頭に秋水が突然出てくるが、秋水につながるような新作の思想、行動等の紹介もなく、不自然な編集である。

私が思ったのは、当時、秋水の思想は、平民新聞等を通して地方にも知られ、新作も一定のシンパシーをもっていった。そのことに尾ひれがついて、誇大な話ができあがったのではないか。

NHKからの返事はなかなか来なかった。高知放送局に出向くと、やっと番組責任者（プロデューサー）から電話で以下の回答があった。

一、再度、証言をした小澤清氏に聞いたが、いつ、どこで、どんな方法で「かくまった」のかは、わからない。二、郷土史家や秋水研究者などに問い合わせる等の調査はしていない。

三、裏付け作業をしないまま放送をしてしまったことをお詫びする。今後再放送をする場合は、当該部分をカットするか、編集（説明）を加える。

やはり私が思った通りであった。NHKはこの話を聞いて、おもしろいからと、番組のストーリーとは関係ないが、ワンカットだけ入れたのだ。

今年から天皇代替わり、改元。政府は宗教儀式「即位礼正殿の儀」を国家行事で行い、安倍首相が「天皇陛下万歳」。このような時、NHKは無神経にも、秋水の名誉を傷つけ、歴史を偽造する番組を流した。その罪は重い。

（田中全）

# 秋水墓参メッセージ

秋水墓に置いてあるノートへの記録  
(2018年8月〜2019年11月)  
から抜粋。

- 猛暑の中やっと来れてうれしい。秋水、陽水：須賀さんもやすらかに。(東京男性)
- 中村高校を卒業しながら、秋水の墓がここに あることを知らず。土佐を代表するであろう秋水がここまですとんじられていく状況に危機感をもつ。(高知男性)
- 10日ほど前、東京女子医大の入院の友を見舞った際、近くの市ヶ谷監獄跡に行ってきました。奇しくも今日中村を訪れたらこの墓を見つきました。(神奈川男性)
- この地に導かれ、ここに参ることができたことを神様に心から感謝します。私は米国で日本研究支援の司書をしています。ここで学んだこと、ここに來れたことを決して無駄にせず日本の在り方をきちんと伝えていきます。(アメリカ女性)
- 高知の旅に来てご当地を訪ねました。幸徳秋水の冤罪を晴らし顕彰されるご努力に心より敬意を表します。先人の遺志を受け継いでいかねばと思います。(兵庫男性)
- 出版労連有志7名。
- 鎌倉市議会総務常任委員会の視察で四万十の地を訪れ来ました。貴会の取り組に心から敬意と感謝を申し上げます。(鎌倉市議会議員)
- タカクラテル、山本宣治、幸徳秋水を墓参してまいりました。言論の自由守るべし。
- 表現と言論、思想の自由は常に追求し続けたいと奪われてしまいます。遺徳をしのぶとともに、闘いの意義を伝えていきたいと思ひます。
- 保守主義、自国第一主義が台頭しつつあり、言論の自由がないがしろにされつつある現在、秋水先生から学ぶべきことが多くあると感じています。がんばります。(茨城社会科教師)
- 檻の中のライオン憲法講演のため広島から来ました。日本国憲法が表現の自由、思想の自由などを定めている意義を幸徳秋水さんのお話と絡めて講演します。(椋大樹)
- 社会が閉鎖的になる中、秋水先生の意思をもう一度検証されるべきだと、ここに來て改めて感じました。(京都府学生)
- 大逆事件から学ぶこと、今の時代に生きる私たちが忘れてはならないことですね。秋水先生の墓前で約束します。語り継ぐこと、忘れないこと、歴史は過去との対話である。(大阪女性)
- 偶然に発見し参った通りすがりです。墓地と背景をなす桜が満開です。土佐中村と自由民権運動の関連を知り、感動しています。(京都男性)
- はじめて訪れた四国で幸徳秋水先生のお墓を見ることができ大変光栄です。先生の著書の英訳が出版されたこともあり、アメリカをはじめ、アルゼンチンやブラジルの知人の多くが注目しています。今後も歴史を語り継いでいきましょう。
- 幸徳先生に天皇への直訴状を書いていたのだいた谷中村民茂呂近助の末裔です。その節はありがとうございます。(岐阜男性)
- 後輩ジャーナリストとしてお参りさせて頂きました。
- 参りたいと思っていた幸徳秋水の墓に來ることができました。有難うございました。(新潟新発田市、大杉栄の会斎藤徹夫)
- 幸徳秋水、ほんとうに久し振りに、この名前に出会いました。感激です。(参議院議員山田俊男)
- 県立高知短期大学卒業生サークル高知しゅちゅう会
- 豊中市退職教職員の会32名。

## 豊中市退職教員

### 秋水ツアー

10月28日。大阪府豊中市退職教職員協議会の一行32名がみえた。高知県退職教員10名も合流。



絶筆碑

### 秋水と為松公園史跡めぐり

11月10日。一般市民対象に4年目。今年是为松公園。参加16名。城跡、博物館のほか、秋水、樋口真吉、木戸明、藤倉周吉、上林暁、兼松林橋郎らの記念碑を案内。



三の丸

## 秋水墓入り口 改修

高知地方検察庁中村支部がこのほど南海トラフ巨大地震対策として壁を改修。以前より低く、広く、明るくなった。



### 幸徳秋水刑死109年、坂本清馬没45年合同墓前祭

日時 2020年1月24日(金)  
午後0時30分〜1時過ぎ  
場所 四万十市中村 正福寺

#### 記念講演会

時間 午後2時30分〜4時  
場所 市立文化センター会議室  
講師 顕彰会副会長 尾崎清  
演題 坂本清馬の思い出

### 大逆事件処刑110回追悼集会

日時 2020年1月25日(土)  
午後1時〜  
場所 東京都渋谷区 正春寺  
主催 大逆事件の真実をあきらかにする会

# 秋水、文子で日韓交流

## 田中 全

今年五月、韓国ソウルの幸徳秋水研究者、金昌徳（キムチャンドク）さんが中村にみえた。東京の初期社会主義研究会会員で金子文子研究者の亀田博さんと一緒に。

亀田さんには会ったことがあったが、金さんは初めて。秋水顕彰会メンバーで二人を秋水墓、生家跡、絶筆碑、図書館資料室などに案内した。

金さんは韓国アナキズム運動を受け継ぐ社団法人国民文化研究所の総務理事で、かつ韓国アナキスト独立運動家記念事業会の事務局長。ソウルで日本語を教えているというだけあって、流暢な日本語を話す。秋水の韓国語訳論説・論文集のほか、金子文子歌集も出版している。

金さんは日本にはたびたび来ているというが、高知県は初めて。今回は満州朝鮮の独立を叫んだ詩「間島バルチザンの歌」を書いた反戦詩人、高知市の楨村浩も訪ねた。

金さんによれば、秋水の思想は死後、韓国アナキズム運動、対日独立運動等に影響を与えたという。特に、申采浩（シンチェホ）のような知識人層に。

秋水が大逆事件で拘束された明治四三



金昌徳さん（右から2人目）

（一九一〇）年は日本が韓国を併合した年。秋水は韓国、朝鮮の独立運動に関心を寄せていた。

秋水はその前年、安重根（アンジュン）がハルピン駅頭で伊藤博文をピストルで撃った「義拳」を讚える漢詩を安重根写真入り絵葉書の上に書き、湯河原で最後に拘束されたさい、カバンの中にもっていたことは有名である。

秋水はクロボトキン「麵麩の略取」を翻訳出版したことで、日本で最初のアナキストとされているが、大杉栄、伊藤野枝が関東大震災で虐殺されたように、日本では弾圧でアナキズムは広がらなかった。

しかし、アナキズムは韓国では浸透した。戦後は南北分断、反共、北への対抗から、社会主義、共産主義思想が入り込む余地はなく、アナキズムが軍事政権打倒などの民主化運動の思想的バックボーンになった。

今年韓国三・一独立運動から百年。「第三の大逆事件」を描いた映画「金子文子と朴烈（パクヨル）」が日本の主要都市で公開された。



金子文子墓に献花



安重根記念館

高知県では予定がなかったことから、配給会社から秋水の地元で自主上映をという要請があり、六月、中村と高知で上映した。中村は秋水顕彰会の主催。二会場合わせて約五百人の入場者があり、盛況であった。

大逆事件とは秋水の事件だけと思っていた多くの人にとって、大逆事件と植民地支配は表と裏という歴史の深層に眼を開かせる衝撃となったようだ。

金子文子の墓は朴烈の生地、韓国慶慶（ムンギョン）市にあり、毎年命日に追悼式が行われていると、金さんからお誘いを受けたので、七月二三日参加した。

韓国には以前から一度は行きたいと思っていた。文子はその機会を与えてくれた。高松からソウルに飛び、国民文化研究所が手配した貸し切りバスに乗り、高速道路を二時間。そこはリング畑が点々とある山の中であった。

文子墓は立派な朴烈義士記念館の敷地内にあり、館内の展示では秋水も紹介されていた。展示には亀田博さんも協力したそうだ。

韓国政府は昨年、文子に日本人二人目の「独立有功メダル」（功労賞）を授与したこともあって（一人目は弁護士布施辰治）、式典は例年より多数の地元市長など約百人参列。私も「幸徳秋水地元元市長」と紹介され、献花した。

イベント会場では、女優チェ・ヒソ（映画の文子役）の挨拶、シンポジウム、文子

を讚えるサンドアート、市民コーラスなどがあった。

二日目は美江（アガン）に移動。文子が養女とされ少女時代暮らした家や小学校、警察署跡などの案内を受けた。ここで日本人による過酷な朝鮮人支配の実態を目に焼き付けた体験のちに文子をアナキストにしたと本人が手記「何が私をこうさせたか」に書いている。

日本からの参加は山梨県（文子故郷）の金子文子研究会会員や亀田さんなど十名であったが、ソウルから往復一泊二日の費用は全額主催者持ちの招待であり、心温まる歓迎を受けた。

日本人でありながら、韓国で愛され大切にされている文子。韓国人たちは「反日帝」ではあっても「反日本人」ではない。その懐の深さ、広さに涙が出た。

ソウルでは金さんに安重根記念館を案内してもらった。広い館内には、秋水の漢詩を紹介した当時の地元新聞も展示されていた。

安重根の裁判には多くの高知県人がかわった。国選弁護士は旧野市町（現香南市）出身の水野吉太郎。ほかに、検察官の溝渕孝雄や憲兵、監獄看守など。水野弁護士は、事件現場は満州であることから日本の法律は及ばないとして無罪を主張したが、結局死刑に。

安重根は獄中で多くの書を残した。東洋平和論も書いた。秋水と同じである。その一部が高知県に持ち帰られていたが、最近、自由民権運動研究家の公文豪さんらの尽力で安重根記念館に寄贈、里帰りした。

秋水、文子を知ることがは日韓の歴史を知ること。いまの日韓問題の背景、真実につながる。元凶は日帝（大日本帝国）さながらの安倍政権。

秋水、文子が日韓連帯を呼びかけている。